



# 感染症分野

## 研究領域

### 「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2022年	研究期間	5年間
研究課題名	住血吸虫症の制圧・排除へ向けた統合的研究開発		貢献する主なSDGs  
研究代表機関	長崎大学		
相手国	ケニア共和国	主要相手国研究機関	ケニア中央医学研究所 (KEMRI)
研究課題の概要			
<p>住血吸虫症は世界で2億3千万人が罹患する「顧みられない熱帯病」であり、SDGsや日本政府の国際保健外交戦略で重視される地球規模課題である。淡水産巻貝から遊出した幼虫は皮膚から侵入し慢性感染に至る。有効なワクチンはなく、対策には集団薬剤投与、ヒトを含む感染伝播状況のモニタリング、住民啓発などが不可欠であるが、途上国ではエリミネーション（排除）へ向けた対策モデルの構築は進んでいない。本研究はケニアの流行地域で、高感度モニタリング法と水環境の感染リスクアセスメント法の研究開発、住民啓発を包括的に推進することで集団薬剤投与を基軸とする国家標準対策モデルを作り、アフリカでの地域制圧へ寄与するものである。さらにプラジカンテルしか薬剤のない現状を踏まえ、新規薬剤の開発を積極的に試みる。</p>			